

NEW
ネ ットワーク **しまだ** 
 Network Shimada

発行者 島田療育センター
 院長 木実谷 哲史

♡  平成26年度 **ST科講習会** ♡ 

言語聴覚療法科では、ことばやコミュニケーションの発達、言語障害の各論について講習会を企画し、5月から現在までに3回実施してきました。今回はその内容についてご報告をさせていただきます。

本講習会は発達の凸凹や遅れ、ことばやコミュニケーションの問題を抱えたお子さんのご家族や、地域の関係機関の職員の方々を対象に、ことばやコミュニケーションに関する講習会を開催することで、言語発達に関する知識や療育の視点を深めていただくという主旨のもと企画・実施しています。また、同じ悩みを抱えたご家族の交流の機会を設け、ご家族が前向きに療育に向き合えるよう支援させていただきたく、ご家族同士が語り合える場の提供を目的に「ママ会」という交流会も合わせて開催しています。

『第1回 ことばとコミュニケーションのはなし』では、17名の方がご参加くださり、ことばを話す前の基礎と、ことばとコミュニケーションを育む関わり方のポイントをご紹介しました。内容については「分かりやすかった」と概ね好評でしたが、もっと詳しく聞きたかったという意欲的なご意見もいただきました。『第2回 発音のはなし』では13名のご参加があり、構音(発音)のメカニズムや発達、構音障害について、正しい構音を支える条件と家庭でできる遊びなどをご紹介しました。専門的な内容も多く含んでいたのですが、「参考になった」というご感想もいただきました。『第3回 吃音のはなし』では10名のご参加があり、吃音の定義や治療について、ご家庭での関わり方のポイントに重点を置いてお話しさせていただきました。また、吃音を持ったお子さん同士が知り合える場として、お子さん同士の交流会も同時に開催しました。

6名の年長～小学5年生までのお子さんたちが、「自己紹介ゲーム」、「うちわ作り」、そのうちわを使って「風船サッカー」をしました。その後、パラバルーンやうちわで紙吹雪を部屋中いっぱい舞い上がらせて遊びました。初対面のお友達に少し恥ずかしそうにしていたお子さんたちも、終わる頃にはすっかり仲良くなって、おしゃべりしていました。

交流会は、お子さんだけでなくご家族も、同じ悩みや気持ちを共有できる場所、仲間がいることがとても大切だと感じます。少人数で、お子さんのこと、幼稚園や保育園のこと、就学のこと、友人関係の悩みなど、ご家族同士でしか語れないお話や、実体験に基づくアドバイスが飛び交い、とても有意義な時間になりました。講習会以上に好評で、「また企画して欲しい」というお声をたくさんいただきました。

次回は9月30日(火)に『第4回 話しことばと書きことば～就学前のことばと文字の発達について～』をテーマに未就学のお子さんのことばの発達や文字の獲得に向けてお話する予定です。また、10月31日(金)『第5回 ことばとコミュニケーションの発達を育む遊びについて』では、ことばとコミュニケーションの発達とご家庭で実践できる遊びについてお話しさせていただきますので、ご覧いただければ幸いです。今後も、地域の皆様への情報発信、言語・コミュニケーション障害に関する啓蒙活動に努めていきたいと考えています。

(言語聴覚士 志村 みさと)

- **話しことばから書きことばへ**
- お子さんのことばについて、話しことばから書きことばへの発達をテーマに一緒に考えてみませんか? ~就学に向けてのことばや文字の発達について(予定)~
 - 日 時: H26年 9月30日(火) 10~12時
 - 参加費: 保護者・関係者1,000円(講習会)/200円(ママ会)(税込)
 - 場 所: 島田療育センター(多摩) 厚生棟研修室



ST科講習会(講義)の様子



子どもの交流会(パラバルーン)の様子



子どもの交流会(うちわ作り)の様子

6月29日・8月23日実施

就学に向けての説明会



毎年、就学や進学を控えたお子さんがいらっしゃる保護者向けに情報交換会を実施しています。今までは市を限定し、特別支援教育に関わっている教員や先輩保護者などを招いてお話をさせていただいておりました。今年は今までの形を変え、以前から要望が多かった“中学、高校の進学を考える上で必要な情報がほしい”という意見を基に中学以降の進学、就労に焦点を当てる会と例年通りの小学校就学にむけての説明会の2回に分け、市を限定しないという形での実施を試みました。

まずは、中学以降の進学を対象とした会を『進路、就労、自立に向けて学齢期にできること』として企画、6/29(日)に実施致しました。当日は限られた時間の中ではありましたが、前半はNPO法人を立ち上げご活躍の新堀和子氏、都立南大沢学園の教諭や特別支援学校のコーディネーター、中学校固定級の教諭、先輩保護者から現在の状況や進学にあたっての心構え、進学の流れについてのお話、体験談をそれぞれの立場からお話ししていただきました。後半はお話して下さった方々が設置されたブースに移り、個別の質問に対応してくださいました。時間が過ぎてもなかなか質問は尽きない様子

で、参加された方の熱意を感じました。

8/23(土)には小学校就学を対象とした会『就学にむけての説明会』を実施致しました。この会では特別支援教育の概要や就学にあたっての心構え、持つべき視点などを特別支援学校のコーディネーターや先輩保護者からお話しいただき、当センターの言語聴覚士からも専門職の立場からお話しさせていただきました。

両日合わせて総勢100名近い方々が当日足を運んでくださり、配布した資料に話の内容を書き取る方、熱心に話に聞き入る方などが多く見られました。

来年度に向けて、どのような形で情報を提供していくべきなのか、地域や一人ひとりのニーズを肌で感じながら、今後も情報発信ができればと考えております。

(社会福祉士 湯本 和秀)



6月29日の講演会の様子

心理科主催

ティーチャートレーニング



7月29日から31日の3日間連続で、『ティーチャートレーニング』を開催しました。『ティーチャートレーニング』は、教育や保育に携わる先生方を対象とし、発達障害など特別なニーズのある子どもたちへの具体的な支援方法を、応用行動分析的な視点から考える連続講座です。第2回となる今年は、小学校教員、幼稚園教諭、支援員、保育士、養護教諭など、様々なお立場の先生方10名にご参加いただきました。

1日目、2日目には不器用さや見る・聞くことの苦手さについての疑似体験、当センターの野村医師による医学的背景を含めた発達障害についての講義を行いました。体験等を通して、子どもたちの感じている困難さを理解し、支えていくことの大切さをあらためて感じていただけたかと思えます。また、心理スタッフによる行動観察の方法や支援方法についての講義は、先生役と子ども役に分かれてのロールプレイや、グループワークを行



ティーチャートレーニング(講義)の様子

ながら進めていきました。両日も、先生方には『行動支援シート』というワークシートへの記入を通して子どもの行動を具体的に記述するこ

とや、「直前のきっかけ」や「直後の結果」から子どもの気になる行動の背景を考えたり、より望ましい行動を引き出すための支援について考えたりするホームワークにも取り組んでいただきました。

ティーチャートレーニング(事例検討)の様子



3日目は『行動支援シート』を使いながら、事例検討を行いました。気になる行動へ対処する時には、まず最初に「なぜその行動が起こっているのか？」を考えることが必要となりますが、これがなかなか難しく、先生方が苦戦するひと時も…。けれども、「友だちに対して強引に関わってしまう」、「午睡の時間に大声を出してしまう」などの気になる行動について、「クラスのルールを絵カードで伝える」、「よい行動が見られたら好みのシールをあげる」などと先生方同士で様々な視点からの実践的なアイデアをたくさん出していただきました。

先生方からは、「子ども自身が困っている」という視点の大切さ、褒めることの大切さを改めて実感した」、「子どもの育ちに役立てていけるようになりたい」といった温かいご感想をいただきました。ご多忙の中、また夏の厳しい暑さの中、3日に渡りご参加くださいました先生方に心より御礼申し上げます。ティーチャートレーニングは来年度も開催を予定しております。なお、保護者の方を対象とした連続講座である『ペアレントトレーニング』も年に2回開催しておりますので、詳しくは掲示やHPをご覧ください。

(心理判定員 眞田 恵)

作業療法科主催 保護者向け講習会

姿勢を育てる運動遊び

7月26日(土)に「夏休みに実践できる！姿勢を育てる運動遊び」をテーマに『作業療法科 保護者向け講習会』を開催しました。

昨年度に「姿勢のはなし」をテーマに開催した後のアンケートでは、「姿勢を良くするにはどんな遊びをすればいいの？」という声が聞かれました。そのため、今回は「姿勢を育てる運動あそび」について体験を交えながら遊び方のポイントを紹介しました。運動遊びについてお話しする前に、まずは姿勢についての理解を深めていただくために、日ごろのお子さんの姿勢の振り返りや、良い姿勢・悪い姿勢の体験をしていただきました。そして「姿勢を育てる運動あそび」については、今回は大きく5つ

「姿勢を育てる運動遊び」講習会の様子



をとるあそび、手で支持するあそび、しがみつくあそび、のびあがるあそび、ぐっとふんばるあそびが大切となります。これらの遊びを行うときの遊び方のコツ・ステップアップ等について、いくつかの遊びは実際に体験していただきながらお伝えしました。参加者の方々は体験の感想を活発に出しあってください、とても明るい雰囲気で行うことができました。「説明を聞くだけでなく、実際に自分で体を動かすことで理解しやすかった」、「具体的な遊びを例に体験できて、実際にすぐにでも試してみたい」等、嬉しい感想もいただくことができました。

次回は11月29日に講習会を開催する予定となっています。落ち着きのない子、行動が遅れやすい子について、理解を深めていただき、遊びや環境の工夫について体験を交えながらお話しできればと思っています。今後、島田療育センターのホームページからもお申込みできるようになりますので、確認してみてください。

(作業療法士 児玉 綾香)

のあそびに分けて紹介しました。姿勢を育てるためには、バランス



「運動あそび」の体験の様子



連載「行動はメッセージ～気づいてよ、僕たちの気持ち～」 その6 トークンエコノミー法で適切な行動を増やす

最終回では、トークンエコノミー法についてお話します。トークンとは代用貨幣と呼ばれ、もともとは経済学の概念です。皆さんもお買い物をする際にお店でポイントカードを貰うことがあると思いますが、トークンはポイントカードのポイントと考えてもらうと分かりやすいと思います。ポイントカードはポイントを集めると、割引券や商品などがもらえるシステムで、お客さんの購買意欲、すなわち「買う」行動を促進させるものです。それと同じで、子どもの適切な行動を促進させたい時に、私たち支援者はトークンエコノミー法を使用します。

まずは支援者と子どもで、どのような行動を、いつ、どこで、どのような頻度や期間で、そして約束が守れた時のご褒美をどうするのか、といったことの明確な取り決めをします。これを行動契約と呼びます。約束を開始して、約束通りの行動ができた時にはシールなど(これがトークンです)を与えます。ここで気をつけなければならないことは、最初からいっぺんにたくさんの約束をしないこと、そして難しい約束にせず、まずはトークンが比較的簡単に手に入れられる約束から始めることです。トークンが一定量貯まれば、子どもにご褒美を与えますが、ご褒美をもらえるまでの道のりが長いと、子どもは途中でやる気

をなくしてしまいます。ですので、最初は短期間で比較的簡単にご褒美がもらえるように設定することも留意しなければいけません。さらにトークンを集めたら、どんなご褒美と交換するのか考えることも適切な行動を定着させる上で重要なカギとなります。もちろん、本人の好みではないご褒美では効果はありません。子どもの意見も確認したうえで、子どもにとってうれしい物や楽しみな活動などを用意するようにしましょう。

私たち大人は、子どもたちの不適切な行動に注目しがちです。そして、知らず知らずのうちにきつく注意してしまったりしてしまいます。しかし、トークンエコノミー法は、子どもたちの適切な行動を増やす支援法であると同時に、私たち支援者に対して子どもたちをほめてあげる機会を提供してくれる、子どもにとっても支援者にとっても有用な支援法の一つです。子どもたちのよい行動をたくさん伸ばし、子どもたちをたくさん認めて、

子どもたちの自己肯定感を高める、このことを常に意識して子どもたち一人ひとりに向きあっていただけると嬉しいです。



(心理判定員 山本 秀二)



9月6日のわいわいまつり、今年は雨で一部のプログラムが中止となりましたが、夕方の一時的に天気が回復し、最後は花火を楽しむことができました。多くの方々のご協力・ご寄付に心より感謝申し上げます。

おしらせ

※ 島田療育センター(多摩)で実施予定のイベントです。詳しくはホームページをご覧ください。

親子で楽しくからだをうごかさう!

感覚や刺激を与えて、からだへの意識や自覚を促します。スポーツの秋、運動を通してお子さんと楽しい時間を過ごしませんか?

日時と対象者(時間:10~11時)

- ①11/12(水): 歩行や移動の際に介助が必要な就学前のお子さんと保護者
- ②11/19(水): 重度重複障害をお持ちで自立歩行が難しい就学前のお子さんと保護者

定員: 10組(各日程の1ヶ月前より申込受付開始)
 参加費: ひと家族1回 1,000円(税込)
 講師: 健康運動指導士



親子で楽しい音楽療法

楽器をつかったり、音に合わせてからだをうごかしたりします。みんなで楽しく、音で遊びましょう!

対象者: 重度重複障害をお持ちで、自立歩行が難しい就学前のお子さんと保護者の方

日程: (H26)10/31、11/26、12/24、(H27)1/30
 時間: 10~11時

定員: 6組(各日程の1ヶ月前より申込受付開始)
 参加費: ひと家族1回 1,000円(税込)
 講師: 音楽療法士 福井友子先生



HPUリニューアル☆

当センターのホームページが少しずつ変化していることにお気づきでしょうか?今年4月にはブログ「ぼっけ」をリニューアルし、ホームページだけでは紹介しきれない各部署の取り組みやイベント情報を発信しています。また、初めての方も必要な情報を見つけやすいよう、「よくある質問」ページの見直しやサイト内検索機能も追加しました。これからも随時内容を見直し、皆様がいやすいホームページを目指していきます。

地域療育等支援事業のご案内

外来療育等支援事業(療育相談)

運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。

施設支援一般指導事業

発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。

費用は 無料です。

訪問療育等支援事業

地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

窓口は「地域連携情報室」

042-374-2101(直通電話)

初診再開のおしらせ

一部休止しておりました初診受付を9月1日より再開しました。なお、申込手続きの方法を変更しておりますので、ホームページの「外来初診のお申込み再開について」も併せてご覧ください。

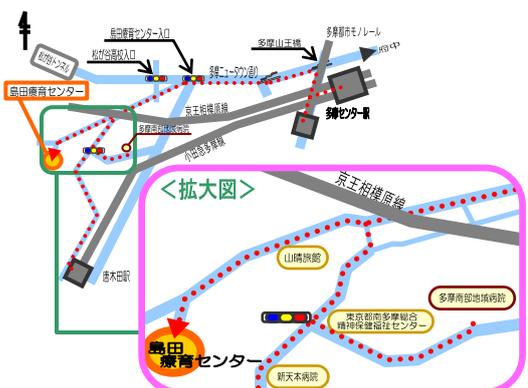
- ①初診の方は「医療機関又は公的機関からの紹介状」をお持ちください。
- ②主治医と次回の約束が無く、最終受診より6か月以上が経過された方には「所属機関からの情報提供」をお願いしております。

お申し込みは、医療相談課への電話申込に加え、ホームページからも24時間申込可能となりました。

編集後記

徐々に葉っぱが色づき始め、秋はもうすぐそこ、と感じる今日この頃です。日本語には色を表す美しい言葉がたくさんあります。紅葉に関連する色名だけでも紅、唐紅(からくれなゐ)、柿茶、樺(かば)、茜(あかね)、緋など...豊かな色の表現と言葉は、日本人の繊細な感覚ならではの感心します。芸術の秋、これから益々色づく葉や木々、山々の色の変化を楽しみながら、これは何色?と考えながら眺めてみるのも風情があるかもしれませんね。(市川)

編集 : 社会福祉法人 日本心身障害児協会
 島田療育センター 支援部 地域連携情報室
 住所 : 〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
 電話 : 042-374-2071(代表)
 E-mail : info-room@shimada-ryoiku.or.jp
 URL : http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉
 多摩センター駅下車
 →約20分

〈バス〉
 多摩センター駅
 バスターミナル12番
 乗り場
 「南部地域病院」行き
 →約7分
 終点「南部地域病院」
 下車→徒歩5分